

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

一部 100円

どっかい生きてます!



巻頭言

MESSAGE from YUTAKA メッセージフロムゆたか

忙しく動き回る 私の原点には回復がある



古参入寮者のジュンさんと。シャイなので写真は苦手ですが、
今も農業隊の現役メンバーです

体にこたえた熱地獄のような8月の猛暑から一転、9月に入った途端に天候不順が続き、暫くは体調を整えるのに苦労しました。それでも着実に季節は移ろい、今や秋本番。動くにはもってこいの状況下で、私は相変わらず忙しい毎日を過ごしています。少し前にはやや件数が減っていたのですが、ここに来て当事者の家族や福祉行政などから「紹介を受けたので息子を入所させたいが、手続きはどうしたらいいか?」「当事者に勧めたいので、潮騒さんが取り組む就労支援の活動内容を詳しく教えてほしい」など、外部から寄せられる相談が増えています。コロナ禍による巣ごもりの影響なのかよく分かりませんが、お陰様(?)で私の携帯電話は休む暇がないくらいの使用頻度です。また、このところ裁判での情状証人の要請も毎月2、3件で推移しており、遠く関西圏などからもオファーが寄せられるようになりました。周囲からは「わざわざセンター長が出勤なくてもいいのでは?」「そろそろ若いサポータースタッフに振ってみては…」などと有難い忠告(?)を受けています。

私の年齢や健康を気遣っての事だとは分かっているのですが、その度に「この忙しさは私の回復を支える大事な役割をしてくれているんだよ」「いろんな人との出会いは、自分を原点に引き戻してくれる妙薬のようなものなんだ」と、家族や職員たちには納得してもらっています。老いたる者の身勝手な自己満足や、常識をわきまえない意固地な行動ではないのです。例を挙げましょう。情状証人で出廷すると、被告への質問で検事さんから当事者の行動についての生々しい状況が語られます。彼らの狂った様子は、まさに私自身が過去に経験してきた事そのものです。「あなた

は目いっぱい覚醒剤を体に入れて、その夜は女性とホテルで一緒に過ごしたのですね」などと説明されると、クリーン生活が20年近くになる私でも一瞬、髪の毛が逆立つような感覚を覚えます。また関係者との会食でついうっかりワイン入りのデザートを口にした時など、かつての魅惑的な酔いがリアルによりみがり、ハッとさせられる場面があります。その度に我に返り、「依存症は一生治らない病気」の意味を思い知らされます。そして「俺はステップ1で“無力を認めた”はずではなかったか…」と反省させられます。だからこそ、こうした形で苦しむ仲間たちの“現場”に出向くことは、「私の回復に向けた試練という意味合いがあり、不可避な行為なのだ」と自分に言い聞かせています。

繰り返しになりますが、私の生活信条は「七転び八起き」「雨だれ石をも穿(うが)つ」です。何をするにも根気が続かず、三日坊主の私が仲間の回復を手伝う天命にも似た仕事を与えられ、幸運にも60歳から遅咲きの回復人生を歩めている背景には、私にしか語り得ない固有の過去と体験があります。それは他の人には譲れないものです。とても褒められたものではありませんが、いくら抗ってもその過去は消えません。私は生きている限りマイナスの過去と向き合い、今をより良く充実したものになりたいのです。残された時間はそう長くはありません。私が倒れたら、若い次世代リーダーたちが彼ら自身の体験に新しい何かをプラスして、私を乗り越える形でこの仕事を引き継いでくれることでしょう。それまでは、天が私に与えてくれた忙しさに感謝の日々です。

(法人理事長 栗原 豊)



潮騒建築部の発足で就労支援に厚み加わる 外部のプロ職人が建築仕事のノウハウを指導

リーダーの長岡さん

潮騒JTCでは従来の就労支援の形を発展させる形で、新しく「潮騒建築部」を発足させました。長引く不況やコロナ禍などで苦境に立たされている外部の建築技能士など専門職が、新たな技術指導職員として潮騒JTCの活動に加わることで、より一層就労支援プログラムの厚みが増します。同チームに参加する入寮者らにとっては、その道のプロ職人が持つ高い技能と技術を直に学べる環境が整い、より実践的な職業訓練が可能です。これまで潮騒JTCには主に便利屋作業に取り組んできた「仕事隊」がありますが、本格的なジョブコーチ陣の登場によって社会復帰を目指す就労支援活動がレベルアップしそうです。

建築部チームは仕事隊と同じように、潮騒グループが保有する各施設の修繕やリフォーム、補修作業など営繕活動が主な任務ですが、支援者や地域の方からの依頼を受けて建物の内装や外装、ペンキ塗り替えなど家屋に係わる作業全般にも取り組みます。施設の営繕については専門性を有する技術が求められることから、どうしても外注に頼らざるをえませんでした。しかし、建築部の登場でこれらの問題が自前で賄えるようになり、しかも本格的に就労支援のプログラムとして取り組めるので、まさに一石二鳥です。

現在、同チームは、ナイトケア施設「国末寮」にプレハブを建設する作業に取り組んでいます。工事ではプレハブを計7つ繋いで建て、その後に寮の壁に穴を開けてプレハブと寮を通路で繋ぐ計画です。潮騒建築部のスタッフはリーダーの長岡さんら外部の3人で、長岡さんは地元の建築業界で実績を積んできました。こ

れに就労支援の仲間4～5人が加わってチームを編成しています。あくまで就労支援の一環であることから、参加メンバーには工期の厳守を義務づけるような指導はせず、本人にとっての回復のペースを第一義にして、プロの技を見て、真似て、習得することに重きを置くスタイルです。手伝いレベルから始まり、仕事への意欲や習得レベルを見ながら、徐々にスキルアップを目指していく指導のようです。

長岡さんは「就労支援の人たちには、仕事を期日までにさせるということはありません。私たちが“仕事をする”ということを見てもらい、そのなかで手伝ってもらいます。未経験の人には、建築の仕事を見てもらって社会に戻る目標を持ってもらいたいです。」「たとえすべった(=スリップ)としても、“許して受け入れる”、を実践しています。こちら側からすれば、賃金がなくても頑張ってく姿に勇気づけられ、励みになっています。将来的には、建築部で“働くこと”を学んだ人たちが外で働けるような仕組みづくりもしていきたい」と熱く語ってくれました。

栗原センター長は「潮騒には23カ所のナイト施設があり、老朽化などで順次手を入れなければならない。これを外注ではなく、就労支援活動と絡めて施設内部でやれることの意義はとても大きい。基本は当事者活動ながら入寮者は外から力を借りることで刺激を受け、就労に向けた動機付けにもなる。建築の仕事が肌に合っている入寮者もいるので、回復に向けた受け皿や選択肢になっていくと思う」と期待を寄せています。



しおさい水田 稲刈り

計6ヘクタールの潮騒水田で農業隊が稲刈り作業

季節は実りの秋。潮騒 JTC でも潮騒農業の一大イベントともいえる稲刈り作業に迫られました。今年は夏場の猛暑の影響が懸念されましたが、ほぼ例年並みの収穫量となったようです。農業隊リーダーのヒトシさんによれば、品質も「まずまずの出来で食味もいいです」とのこと。黄金色に実り、頭を重く垂れた稲穂が田んぼを渡る風に揺れる中、農業隊のベテランメンバーらが運転するコンバインが大きなエンジン音を上げながら、鹿嶋市やその周辺にある潮騒水田を順次移動して新米(コシヒカリ)の収穫に励みました。大型機械が入らない一部の田んぼでは昔のように手刈りによる人力で行われました。また、潮騒農業では一部水田で収穫した稲を天日干して、納豆用の容器(藁苞)に使われる稲わらの加工・生産も行うために、刈り取りと結束ができる小型のバインダーと呼ばれる農業機械も活躍しました。

潮騒では、設立当初から入寮者の就労支援策として農業に力を入れた独自プログラムに取り組んでいます。当初は施設内での自給自足を目指し、耕作放棄された農地や田んぼを借りてスタートしました。その後、新たな入寮者や施設の増加などに伴って野菜やコメの消費量も年々増加してきたために、作付面積を徐々に拡大しています。そのため今年のコシヒカリの作付総面積は約6町歩(約6ヘクタール)に及びました。実に東京ドームの1.3倍の耕作面積で、今や大規模農家をしのぐほどとなり、大所帯となった潮騒グループに係わる人たちの胃袋を支える重要な存在になっています。しかし、この収穫量でも潮騒 JTC で必要な1年間の消費量は賄えず、約2カ月分は不足するために来年も更なる面積拡大を検討しています。

エイサー隊とともに潮騒 JTC の看板的存在である



栗原センター長も手刈りにチャレンジ、汗流す

農業隊への参加メンバーは現在30数人で、このうち今年の稲刈り作業には14、5人が加わりました。潮騒水田は高齢化した農家の耕作受託要請などに応じて、鹿嶋市を中心に近隣の潮来市、行方市などに合計約30カ所点在しているため、収穫した新米を脱穀機などが置かれている猿田農場(鹿嶋市猿田)の穀物倉庫への運び込む作業と荷下ろし、その整理などにも人手がいることから、サポートメンバーとして一般入寮者や一部職員らも助っ人に加わりました。このように水田と倉庫の往復運搬や備蓄作業などに大きな労力が割かれるので、今後は水田の集約化と耕作エリアの拠点化が大きな課題です。

今年は夏場の猛暑から一転、9月に入ると雨の日が続いて刈り取りのタイミングが難しかったようですが、天候の具体を見計らいながら延べ20日ほど掛かって

作付した全ての水田で稲刈り作業を終えました。今年も地元でコメ作りに取り組んだ経験を持つサワさんが巧みにコンバインを駆使し、他のメンバーにも的確な指示を出すなどしてスピーディーに作業を進め、その活躍が光りました。また、忙しい合い間を縫って手刈りによる稲刈り作業に参加し、心地よい汗を流した栗原センター長は「コメづくりは潮騒の就労支援活動の真髄であり原点。全てはお腹が満たされて始まる。仲間たちが汗水流し苦勞してつくった新米を食べるのが、私の一番の楽しみ」と収穫の喜びを語りました。ヒトシさんは「仲間たちはいろんな病気や障害を抱えているので人員の計画的な配置が大変だけど、農業が当事者の回復に役立つことは既実証済み。圃場整備や老朽化した農業機械の更新など一つひとつ課題をクリアして、潮騒農業を更に発展させていきたい」と意気込んでいました。

受刑者からの手紙

社会復帰の新しい形の確立のために前進してほしい

残暑お見舞い申し上げます。貴所ご健勝のことと存じ上げます。私が初めてセンター長からのお手紙を拘置所で受け取ったのは約5年前ですが、それ以来潮騒ジョブトレーニングセンターは新しいチャレンジを成功させて見違えるほど大きな団体になっており、そのことに驚くばかりの私です。農業の拡大や「ホテルの里」構想等々、次のステップへと進む仲間の皆様、そしてそれを引っ張っておられるセンター長の信念と行動力に憧憬の念すら覚える私です。

今回の受刑生活が7回目の収監生活となる私ですから、自分自身が薬物依存症であることは十分に自覚しております。そして、それが自分自身の意思でなんとかかなうような生やさしいものでもないことも、私自身が経験を繰り返

返してきたことで十分に承知しております。それでも自助施設へすべてを委ねることの決心が出来ないまま、このように迷っている私はおそらく人一倍欲が深いのではないかと思うところです。残刑2年余月の間に自分なりのビジョンを確かな形で立ち上げ、どのような形であれ薬物を断った形での安定した生き方が出来るよう頑張っていきたいと思っております。今後も変わらず見守っていただければ幸いと存じます。センターの今後、そして社会生活に戻るための練習・ジョブトレーニングについても力を入れていかれる事と思いますが、ダルクその他施設が成し得ない社会復帰の新しい形の確立のために、更に前進していただけることを切にお願いをして失礼を致します。

(山梨県 Aさん)

センター長の言葉を胸に刻み、社会貢献できるよう頑張る

残暑お見舞い申し上げます。長期にわたり続くコロナ禍の中、年々異常気象も続き、各地で災害も多く発生していますが、センターの皆様におかれましてはお変わりなくお過ごしでしょうか。いつもお手紙と「どっこい生きてます!」を有難うございます。収容生活の中、大きな糧となり、この先を考えていく中でも参考となっています。コロナ禍の中にあっても、今できることをいろいろと進められているご様子、栗原センター長の思考、指導力に感服するばかりです。早く直接お話を聞き、指導を受けたいと考えております。

また、シゲさんとも、今までの体験を踏まえた話を色々したいと思っていますので、今後もど

うぞ宜しくお願い致します。私の方ですが当施設でも漸漸、ワクチン接種が始まりそうで、私は9月下旬頃には2回目の接種を終える計画です。社会ではまだまだワクチンが足りないというニュースの中、接種を受けられるということはありがたいことです。栗原センター長のお言葉のように、「薬物をやめた“新しい生き方”の道。一緒に歩みましょう」をいつも胸に刻んで、頑張っただけでも社会貢献ができる人間になりたいと思います。それではデルタ株の感染が急増していますが、今まで以上の予防を徹底され、皆さん力を合わせて乗り切ってください。皆さんがお元気でいられるよう祈っています。

(北海道 Yさん)

「受刑者の手紙」は本来は公開されることを前提としていない私信ですが、当事者の本音が書かれており、依存症回復の第1歩である「自分に正直になること」を示す手本です。プライバシーに配慮し、掲載させていただいています。

シゲさんの、6年間で4万通の返信は凄いこと

ようやくほっとできる季節になりました。お便り有難うございます。毎回、喜んで拝読しています。6年間で4万通の返信(拍手!)、凄いことです。シゲさんが言っている通り「継続は力なり」ですね。そして6年間、一度として酒も飲まず「新宮寮」で6名の人たちと依存症に負けじと、真剣にプログラムに取り組んで頑張っているとの手紙を拝読していて、その姿勢には頭が下がるばかりです。

潮騒通信「どっこい生きてます」とパンフレットなどで皆様の顔を見ていますが、元気で精進している様子が私の方まで届いています。私もそれで元気が出て日々頑張れている力になっています。有難うございます。栗原センター長の「メッセージ・フロム・ゆたか」によると、毎月の家族会も中断されている様子、再開が待たれますね。それに母の愛情の深さに涙した、とのこと。私も母に不幸ばかりでした。ただ一つのことです。許しをもらいました。それは母親に息子を見送らすことをせず、しっかりと母を見送りしたことです。人生の順番でいけば

当然かもしれないのですが、親に我が子を見送らせること、これほど親不孝はないのではないかと思います。自分勝手な言い分かも知れませんがね。

またガッキーさんの訃報ですが、享年61歳で2月に誕生日迎えたばかりだったのに、とても残念です。陰ながらご冥福をお祈りします(合掌!)。仲間の人たちに見送られ、幸福な最期だったと思います。そして無縁仏になることなく近くに仲間がいる。嬉しいことだと思います。一方、家族愛に満ちた女性ハウスにも感動しました。めいさんのご両親も粋なことをしますね、心が温まる話です。人皆そうですよ。迷惑かけても泣かしても、やはりおなかを痛めた子です。憎いはずがないですよ。めいさんのご両親に感謝です。よき話、親の深い愛情とやりやりましたね。ほかにクリーンバースデー、センター長を始め皆さん元気なよき笑顔されていますね。こちらの方では、心からの笑顔なんて同僚をみてもないです。それでは皆さんご自愛を。

(山梨県 Iさん)

栗原さんの「人生の逆転をする」はその通りだと思う

先日そちらからの手紙が届き、皆さん元気そうなので安心しました。手紙に書いてあったことですが、私はこの先も潮騒ジョブや自助グループとずっと繋がり、生活していくと決めています。これは自分自身のためです。栗原さんが手紙に書いてくれた言葉の一つにあった「人生の逆転をする」という言葉は、まさにその通りだと感じ考えさせられる言葉でした。私がここから外に出てどの様にどんな風に生活をしていくのかは、すべて栗原さんと話して栗原さんの今までの経験をいろいろと学び、考え決めていこうと思います。

潮騒ジョブでは農業を始め食堂、各事業は順調でしょうか？ 鹿嶋というところは人が生きていくために必要なものはすべてそろっていると思います。近頃はテレビ等で鹿嶋の海も目にします。私は肉、野菜も好きですが、魚貝類も好きで若い頃は年中素潜りや釣りをしに海に行っていました。素潜りは、その海を知らなければ中々うまく潜ることも出来ないから結構面白いものですね。外に出たらやらなければならないこともやりたいこともたくさんあります。ともあれ私は、栗原さんと会えることを楽しみにしています。(北海道 Kさん)

しおさい俳壇

9月のお題

虫

選者 桐本石見

特選句

虫たちの
音色いつしか子守唄

みく

鹿島神栖の夜も更けるといろいろな虫の声が聞こえる。我家の窓辺近くも草叢(くさむら)なので時には鈴虫の音も聞けて、歳を重ねた今改めて風情に浸りますが、聞き入ると闇の中を漫(そぞ)ろ歩く思いにもなり、やがて眠たくもなり子守唄にも思ふ。一人の夜更けを彷彿する句。

栗拾いは果樹園と里山や雑木山で行うのがあるが、ことに里山などは朝早く他人が来ない内に拾うのが楽しい。この鹿島潮来の山にはまだ柴栗もあり、親子で露の道を出掛けたのか。明るく楽しく懐かしい句。

特選句

朝露を
踏んで親子の栗拾ひ

ラク

虫の声と言えば鈴虫松虫を思うが、蟋蟀(こおろぎ)やキリギリス、バッタなど懐かしく、中でも蟋蟀は家の近くや藪にいて親しく鳴き声もどこか里訛りを思う。私の故郷は出雲のズー弁で東北弁にも似る。面白く故郷の秋の夜を彷彿する句。

特選句

虫の声
故郷訛りも懐かしき

アベ

俳句へのいざない

第二十回 言葉の力

俳句は世界で一番の短形詩と言われ十七文字で景色や人事の感慨を詠いますが、大昔は言葉は言魂(ことだま)として霊力があるとされた。

「志貴嶋の日本(やまと)の国は事霊の佑(さき)はふ国ぞ福(さき)くありとぞ」(柿本人麻呂)、と万葉集にもあり、天皇や神の御言葉は絶対の力を持った。また漢字が伝来した時代には言魂も事霊とされた。

現代でも大方の事は言葉で約束し、実行する。しかし違約したり言葉巧みに騙したり、

また忘れるので記録する。

良い言葉は幸せを生み、不吉な言葉は凶事を招くので忌する。ことに婚礼などでは言葉を選ぶが、思えば婚約の告白は手紙などあるが言葉で告げるのが多い。それだけに身から出た言葉には魂が籠る、とも言えます。従って俳句を詠む場合も見事、体験した事を一字一語に心を籠めてを自分の句にしたいものです。また人の心は字の様に、水に浮く小舟に似て小波でも揺れ易く、言葉もそれに倣って揺れたり移ろうので、舵を確かに持たなければとも思います。



今月の秀逸句

茹で栗を
剥くや俣ばる郷の祖母

ラク

栗は焼いても茹でても美味しく子供の頃は好きなお八つでもあつて栗拾いにも多くいった。それを祖母や母が茹でたり勝栗にしてくれた。今は買うのが多いが皮を剥く度に祖母を思う懐かしい句。

涼やかに
虫の声聞く喫煙所

しま

鈴虫の
聞ゆる外の喫煙所

ひーちゃん

喫煙は今では他人の迷惑とのことで特定の場所に指定されているが、この詠の場所は外で草叢にも近く鈴虫の音が聞こえる、これも一人の一時の幸せかも。

晴天や
イナゴ飛び交ふ田んぼ道

オノ

イナゴは稲の害虫だが昔は佃煮などにした、露の朝や雨後に羽が濡れてイナゴが飛び辛い時に捕ったり晴天の下校時の縄手道に跳ねるイナゴも懐かしい句。

夕焼けに
かくれんぼかな赤蜻蛉

えび

童謡にもある赤蜻蛉には、秋茜、深山茜、眉立茜、のしめ蜻蛉などの種類がいて深山茜が一番紅い。夕焼けに群れ飛ぶ茜蜻蛉は少しの淋しさも思うが隠れん坊と言うのも童謡のメルヘンも思う句。

散歩道藪の中なる虫の声

ヒロ

秋の虫は夕方から夜に鳴くのが多いが蟋蟀などは昼の暗い所でも鳴く。静かな散歩道で夕月を見ながら虫の音を聞くのは嬉しく、ことに松虫や鈴虫の音なら心和む風情の句でもあります。

一人居て静かな闇に虫の声

れいこ

「夕月夜心もしのに白露の置くこの庭にこほろぎ鳴くも」など万葉の時代から日本人は虫の音や月を愛でた。灯を消して静かな部屋に遠近の虫の声を聞くのも風情と言うもので少しの艶冶も思う句。

佳作

虫の声近くにありて夜の深む	くめっち	鈴虫とコオロギたちの大合唱	みっちゃん
鈴虫の音の美しき夜更けかな	ちあき	鈴虫のリンリンリン澄める夜更けかな	ミニー
鈴虫の歌声耳に心地良く	まこ	鈴虫の野原に聞こゆ夕べかな	めい
夜も更けて鈴虫鳴くも綺麗な	あきら	涼しげに小庭に聞こゆ虫の声	いるか
コオロギが秋を知らせる昨日今日	のん	静けさに心の和む虫時雨	くま
カブト虫羽を広げてつの二本	あっちゃん	秋月や一声二声腹の虫	こん
分校の友は三人虫の声	アベ	虫の声聞けば辺りも涼しけり	ニモ
虫の音や夜のしじまにしみわたる	ゆーみん	夜も更けて虫も集まり歌ふかな	チャコ
夜も更けて空へも響く虫の声	モモタス		

9月 Clean Birthday シラフを祝おう!

クリーンバースデー

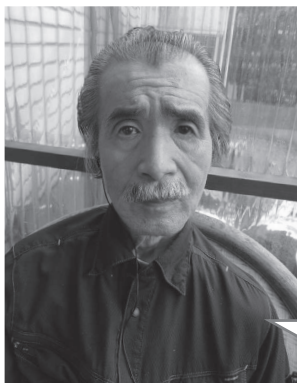
アディクト(依存症者)のクリーンタイム(断酒、断薬、断賭博の期間)を祝う
「クリーン・バースデー」対象者を、コメントを添えて紹介します。



アキラ

感謝します!

9
年目



ネモ

どうもありがとう!

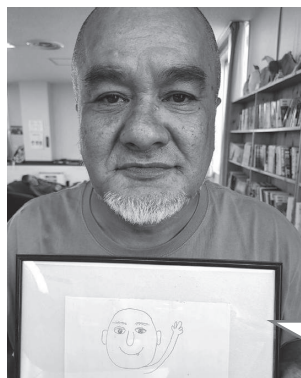
5
年目



ニイ

どうもありがとう!

5
年目



ペータ

2年経ちました

2
年目



タイチ

愛

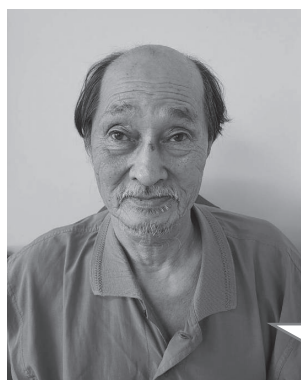
1
年目



ユタポン

ようやく3年!
がんばります!

3
年目



スガ

これから頑張ります!
お世話になります。

3
年目



クラタ

酒を飲まない。
クリーン続けます!

4
年目



お問い合わせ

特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター
TEL: **0299-95-9991**

募集 記者・編集者・カメラマン

潮騒 JTC では情報発信に力を入れ、「潮騒通信」を月刊で発行しています。しかし、コロナ禍の影響で減ページを強いられ、読者の手に届くのも遅れがちです。こうした課題解決のために外部の取材記者と編集者、それにカメラマンの手を借りたいと思います。当事者活動を基本にしながらも、その道のプロの参加で編集作業の円滑化を図り、ニュースレターのレベルアップを目指します。報酬は当法人の規定によります。意欲ある人材の参加を求めます。詳しくは総務担当まで。

9月の行事

- 9月1日 水戸保護観察所 スマーブ
 9月9日 潮騒俳句会
 9月25日 条件反射制御法
 学術研修会(オンライン)

10月の行事予定

- 10月6日 水戸保護観察所 スマーブ
 10月13日 潮騒俳句会

感染予防対策を徹底して行います。
 状況に応じて中止や延期になる場合があります。

献金・献品を頂いた方 (9月15日現在)

- ・ 小川 登志枝 様 ・ 野本 俊子 様
- ・ 高村 周次郎 様 ・ 大滝 様
- ・ 高田 武義 様 ・ 草間 様
- ・ 岡部 成美 様 ・ 高田 武義 様
- ・ 有限会社 柴田工作所
 代表取締役 柴田 宜政 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。
 おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございます。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

ごまめの歯ざしり

我が人生の総括作業ではないが、時おりこれまでに会った人たちのことに思いをはせる場面が増えた。その一人が県内K市出身のHさん。まだご存命だろうか？ハンセン病回復者で、当時80歳近くのHさんに初めて会ったのは約20年前年だった。自伝的な児童書を実名出版し、僕の知り合いの教員に「今度こそ故郷の菩提寺に墓参りできそうなんだ」と話し、それまで実現が困難だった県内での講演を本格的に引き受ける決意を固めていた。そのことを知った僕は無謀にもHさんの暮らすハンセン病療養所を訪ね、その重たい人生について話をうかがった▼Hさんは、人間の尊厳を奪った「らい予防法」下の過酷な運命に耐え、戦後は権利回復運動を先頭で担った人だ。「最後は故郷に帰りたい」「死ぬ前に一度、母の墓前に立ちたい」と涙しながらも、「まだ肉親に迷惑が掛かるから…」と帰郷をためらっていた。1世紀に及ぶ国の隔離政策で、故郷は「世界で一番遠い所」になっていたのだった。療養所の入所者は高齢化する一方で、望郷と墓参りへの思いが日々募る中、Hさんも最大のタブー(禁忌)に踏み込めずにいたが、県内の支援者の地道な取り組みでHさんは6年後には故郷のK市での講演を実現させた▼この時も肉親への影響を懸念してペンネームを使い、「今日は墓参りをしないで帰ります。でも、いつの日か実現させたい…」と複雑な胸の内を僕に語ってくれた。医学的・法的に障壁はクリアされたのに、ハンセン病回復者にとって生家の敷居は絶望的に高い。根強い故郷の非科学的な差別と偏見が、半ば無意識に拒むからだ。2003年秋に熊本県内のホテルでハンセン病療養所入所者らが宿泊を拒否され、心ない誹謗と中傷にさらされた事件は記憶に新しい▼でも、Hさんはその後やっとのことで70年ぶりにK駅近くの寺で「ふるさと墓参」を実現した。しかし、そこには肉親の姿はなく、「いつまでも生きていて困るなあ、と思っているかもしれません」とつぶやいたことが忘れられない。悲しいのは、京都の本山が墓参りを支援するのに、この寺の檀家が拒否反応を示したことだ。でも、最大のタブーを踏み越えたHさんは「子どもたちに“どこ生まれ?”と聞かれると、最初は北関東と答え、次に茨城県となり、今はK市と言えます」と語り、人間としての誇りをのぞかせた▼ハンセン病と依存症や嗜癖問題は似て非なるものかもしれないが、身内から絶縁された潮騒 JTC の高齢となった仲間たちから、「一度だけでいいから、最後は故郷へ墓参りしたい」という切実な望郷の思いを聞かされた時、ハンセン病回復者Hさんのことが思い出される。(勝)

潮騒通信 **どっこい生きてます!** 2021年9月号

Contents

P ② 巻頭言: MESSAGE from YUTAKA

忙しく動き回る私の原点には回復がある

P ③ 潮騒建築部の発足で就労支援に厚み加わる

P ④ しおさい水田稲刈り

P ⑥ 受刑者からの手紙

P ⑧ しおさい俳壇 9月のお題「虫」

P ⑩ 9月のクリーンバースデー

P ⑪ 行事予定 / 献金・献品 / ごまめの歯ざしり



■ 編集・発行: 特定非営利活動法人 潮騒ジョブトレーニングセンター
 理事長: 栗原 豊

本 部: 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210 番地 10

事務局: 〒314-0031 茨城県鹿嶋市宮中 4 丁目 4-5

潮騒アディクションビレッジ会館 4 階

TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

E-メール siosai2010@yahoo.co.jp

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>

